

岡 田 宮

—(宝永4年) 1707年 貝原益軒書—

第 8 号

平成元年 7 月吉日

発行 岡田宮社務所

北九州市八幡西区岡田町1番地

郵便番号 806

電話 621-1898

岡田神社二千六百五十年祭

ご奉賛のお願い



五十年に一度のご改築を行ないますので
何卒ご奉賛をお願い申し上げます。

一口 一万円

※口数に制限はありません。

※御奉名は記念碑に刻み永久保存いたします。

〈募金期間〉

平成元年 7 月～平成 2 年 3 月

〈工事期間〉

平成 2 年 4 月～平成 2 年 9 月

岡田神社二千六百五十年祭 記念事業奉賛会趣意書

各位

謹啓 皆様方には、常日頃より岡田神社の神々の御神縁浅からず、御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当神社も五十年毎の式年祭を迎える時期となり、ここ数年来、神社関係者一同数多くの協議を重ねて参りました結果、岡田神社二千六百五十年祭記念事業奉賛会を結成いたしました。別記のとおり御社殿改築の大業を起す事に相成りました。

当神社は、古代、洞海、菊竹ノ浜（貞元）に熊族が祖神を奉斎した地主神で「岡田宮」と称し、『神武天皇、日向国より、東征の途次本宮に詣り、天神地祇（八所神）を親祭し、ここに一年留り給ふ」と「古事記」に記載があり、古来より北九州における交通の要所に位置しており、皇室、公家、武家、藩主等の崇敬高く、社領十八所末寺九坊

と栄えた歴史ある大社であります。

現在の社殿は、享保二年（一七一七年）に再建され、度々修理が行われて、昭和十五年（一九四〇年）には、岡田神社二千六百年祭記念事業として、銅板葺替等を行ないましたが、近年御社殿の老朽化が著しく、拝殿には雨漏りが始まり、さらには地域の開発と共に氏子崇敬者の急増に伴い、参拝者の増加が目立ち、例大祭を始め、諸行事の際に昇殿参拝をして頂く方々には、拝殿の外で長時間待つて頂くなど大変ご迷惑をおかけしている状態でございます。

つきましては、氏子崇敬者の皆様方には、わが国固有の祖先崇拜、子孫繁栄を祈念致します。氏神信仰を立派な美しい形で後世に伝える本事業の完遂に特別の御理解、並びに厚い御奉賛を切にお願ひ申し上げる次第でございます。

謹言

平成元年七月吉日

氏子総代会 会長 上野 国雄

他 一 同

岡田神社 宮司 波多野 直之

計画事業予算書

- 一、予算総額 一〇〇,〇〇〇,〇〇〇円
- 奉賛金目標額 七〇,〇〇〇,〇〇〇円
- 二、事業内容
 - イ、拝殿新築工事
 - 神殿中殿銅板葺替工事
 - 社務所新築工事
 - ロ、伊勢神宮奉賛金
 - ハ、予備費他

附記

一、奉賛金金額 一口 一〇,〇〇〇円

（何口にても結構です。）

申込期間 自平成元年七月一日

至平成二年三月三十一日

一、御寄進に対する顕彰

御芳名は奉賛帳に記帳し当神社にて永久保存致します。尚、御芳名を後世に伝える為、境内に記念碑を建立いたします。更に特別顕彰については別途考慮致します。

岡田神社二千六百五十年祭記念事業予算収支一覧表

| 収入の部 | | | 支出の部 | | | |
|--------|----------|--|------------|----------|--|--|
| 神社基本財産 | 一、五〇〇万円 | | 拜殿新築工事 | 六、〇〇〇万円 | | |
| 宮司拠出金 | 一、五〇〇万円 | | 神殿中殿銅板葺替工事 | 一、〇〇〇万円 | | |
| 一般募金 | 七、〇〇〇万円 | | 社務所新築工事 | 二、〇〇〇万円 | | |
| 計 | 一〇,〇〇〇万円 | | 伊勢神宮奉賛金 | 七〇万円 | | |
| | | | 予備費 | 九三〇万円 | | |
| | | | 計 | 一〇,〇〇〇万円 | | |

夏越祭

(七月二十九日)



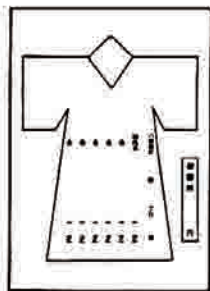
夏越の大祓神事を七月二十九日午後六時より執り行ないます。

社頭に茅カヤの輪を設け、その茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄とを招来するといふ古式に則った夏越祭を厳修致します。

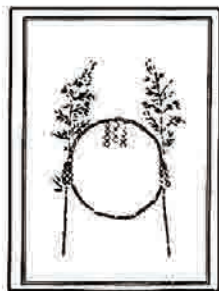
ご参拝の方は上記の形代に御家族の住所、氏名、年令と

輪くぐりの絵

産土大神 守護



形代 (裏)



形代 (表)

を書いて、各自の息を吹きかけ初穂料を納めお参り下さい。

ご参拝の方には「お札」と「茅」を授与致しますので、魔除として、玄関に奉斎して下さい。

当日、お参り出来ない方は前もって社務所で形代をおあずかり致します。

七
五
三



七五三祭は、子どもの成育にともない折り目、切り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行なわれた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行なわれます。

なお、平成元年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 昭和六十二年生
- 五歳 昭和六十年生
- 七歳 昭和五十八年生

※年齢はかぞえ年です。

神社なぜ問答

(その7)



問 神棚に榊を飾ったり、御神前に榊を供へたり、神社と榊とはとても関係が深いやうですが、榊にはどんな意味があるのですか？

答 御質問のやうに神社でのお祭りはもちろん、家庭での神棚など、神々をお祭りするのには榊は欠かせません。榊が神社で大切にされる理由は、神社の起源にまで遡るといへます。社殿建築の始まる以前の大昔、神籬・磐境（ヒモロギ・イハサカ）といつて自然の樹木や岩石を祭りの対象としてゐました。また、神奈備山、ミモロ山等と称し、山を神の宿る御神体と信仰して来ましたが、緑の木木の茂る森や、樹木そのものが、祭りの対象でした。万葉の時代には「社」と書いてモリと読まれてゐました。

神々は緑の木々に囲まれた中に鎮まるといふ觀念が神道の基層的な部分にあるのです。ですから、神社は鎮守の森の中に鎮座し、神棚には榊が上げられて神々しいお姿でお祭り申し上げる訳です。

そのために必要な樹木はサカキだけに限る訳ではありません。タブ、ナギなど常緑の照葉樹も神聖な樹木とされますし、サカキの成育のよくない寒冷な地方ではスギが使はれてゐます。

折口信夫は「榊は、神と精霊と、神と人との問答の木である」と表現してゐますが、榊は以上に述べたやうに神聖さを象徴する樹木であるとともに、神と人との霊的な交流の仲立ちをしてゐるものともいふことができませう。

サカキの語源は一般に生命力に溢れる「栄える木」あるいは神聖な木を意味する「賢木」などといはれます。

また「境木」であつて神聖な区画の境界にあつてそれを表示する木とする見方もあります。

常に青々としてみづみづしい榊の枝は神々の尽きることのない恩恵のしるしであり、同時に私どものまごころを託したものともなりませう。

郷土地名考

⑧

田町 田を埋めて出来た町。

新町 字義通り。一七世紀の新町。

船町 字義通り。

左山ノ尾 狭い山の峰か。掲の北隣接地。

清水 (ししようず「細い流れ」の意か。

岩田 岩石を意味する。

神原 熊手の「神原」に同じ。

長浦 黒崎小学校附近。字義通りか。

裏町 宿駅の通りに対する裏町。

横町 宿駅の通りに対する横町。

鳥野 春日神社の山王山をさす。春日神社の古名鳥野神社に因むか。

殿町 井上家臣宅跡。道柏の屋敷もこの地にあつた。

東城石水溜・西城石水溜 城石開作地で字義通り水溜。城石開作に因む小名に「東城石」、「西城石」。

「城石際」、「城石」がある。黒崎城城山の石を使用したことより城石という。

奉納記



S. 63. 10. 吉日
放送設備一式 秋吉政則

編集後記

● 来年は、岡田神社の五十年に一度のご改築の年です。何卒、厚いご奉賛をお願い申し上げます。

● 好評の「神社なぜ問答」皆様のたくさんのおたよりをお待ちしています。

● 祝祭日には国旗を掲げましょう。

● 一日、十五日には神社に参りましょう。